

令和5年度全建賞 推 薦 調 書
異なる部門の事業が連携した取組の部(部門連携の部)

ふりがな	ゆりあげちくかわまちづくりじぎょう
1. 事業(施策)の名称	閑上地区かわまちづくり事業
2. 事業(施策)実施期間	平成27年4月1日 ~ 令和5年3月31日
3. 事業費(工事費)	662百万円
4. キーワード	~かわまちづくり事業と堤防復旧事業、復旧土地つくかくせいり事業に連携、地域の活性化~ ~かわまちづくり、復興関連事業の連携、都市・地域再生等利用区域指定~
5. 事業概要	震災復興による河川堤防整備事業と、閑上の市街地再建のための土地区画整理事業との連携により一体的な地域活性のための賑わい創出拠点の構築事業

6. アピールする事業又は施策の「手段」と「秀でた成果」		
ハード or ソフトの分類 :該当する方に○印	① ハード面 に秀でた事業	② ソフト面 に秀でた取組
アピールする 1)「手段」	(a)事業連携による一体整備 (c)景観と遺構伝承を考慮した施設整備	(b)堤防復旧事業、復興土地区画整理事業と連携し、地域振興へ寄与 (h)都市・地域再生等利用区域指定による、地元企業等の活性化
アピールする 2)「秀でた成果」	(a)既往特殊堤を活用した水辺散策路の防護柵による景観、遺構 (c)側帯を活用した商業施設と船着場、多目的広場等の整備による集客性向上 (c)事業連携による、利便性向上、地域活性	(b)事業箇所見学会等のイベントを通じ、地域住民・企業への情報発信 (h)被災企業の地元復興への寄与及び、避難住民、地域、観光客誘致促進により、賑わいの再生、発展

7. 特にアピールしたい点
<p>【事業連携による利便性向上と地域振興への寄与】 堤防復旧事業と土地区画整理事業と「かわまちづくり事業」の連携により、一体的に整備したことで、安心安全な賑わい拠点となり地域住民はじめ遠方からの利用者双方の利便性向上と、地域の復興に寄与した。</p> <p>【親水空間の提供】 河川堤防と同じ高さに整備した即退場に賑わい拠点となる商業施設が建設・運営され、川に近接し川が望める空間となっている。また、にぎわい拠点から水辺へのアプローチを幅広階段およびスロープとし、水辺の散策路とテラス設置により幅広い層が活用できる親水空間を提供した。</p> <p>【景観の調和】 川と海の青、緑の堤防と河川敷、白い砂浜の環境に同調するコンクリート舗装の白い散策路、テラスで周辺環境に馴染ませている。</p>

8. 事業を代表する写真及びキャプション



閉上地区かわまちづくり 事業エリア空撮写真



閉上地区かわまちづくり 賑わい拠点エリア川前写真

9. 事業内容・添付資料

- ▶ 東日本大震災の地震・津波により閉上地区の河川堤防や市街地で甚大な被害が生じた。
- ▶ このため、河川堤防を災害復旧事業で整備するとともに、まちの復興・再生を目指す「閉上地区土地区画整理事業」と、水辺空間と一体となった賑わいのあるまちづくりを目指す「閉上地区かわまちづくり」と一体的に整備、事業連携を図ったことで、地域の安全性の確保と賑わいを創出し、地域の復興まちづくりを実現した。
- ▶ また、これら一体的な整備、連携強化によって、相互の利活用が可能となり、誘客面の相乗的な効果と複数の施設を目的とする回遊性が生まれ、地域の新たな賑わいを創出(交流人口の拡大に大きく寄与)させている。

位置図



現在の名取市閉上地区周辺の空撮写真



震災直後の空撮写真
(2011.3)



閉上地区かわまちづくり周辺の空撮写真

◆名取川河川防災ステーション(MIZBE)、河川堤防災害復旧事業と復興土地区画整理事業と「閉上地区かわまちづくり」が連携し閉上地区の新たな賑わいづくり空間が創出された。

●かわまちづくりと連携した施設

- ・側帯整備
- ・幅広堤防階段
- ・親水護岸(船着場、テラス、スロープ)
- ・管理用通路(散策路)
- ・高水敷整地(多目的広場)

9. 事業内容・添付資料

【側帯を活用し堤防と一体となった「かわまちてらす閑上」】

- ◆側帯を堤防と同じ高さとし、河川空間とつながる商業施設スペースを確保し、民間運営のかわまちてらす閑上が開設され、オープンカフェ等のスペースにも利用され、賑わいの拠点となっている。



【幅広の堤防階段による水辺へのアプローチ】

- ◆賑わい拠点から水辺へは、休憩ベンチにもなる幅広の堤防階段を設置。また、水辺には親水護岸としてテラスを設置し、棧橋を利用して船着場としての機能も果たしている。下流の貞山運河付近には潮の干満にフレキシブルに対応可能な階段式船着場を整備



棧橋設置し船着場として活用されるテラス



階段式船着場

【散策路と既存特殊堤パラペットを存置し遺構と景観を保護】

- ◆緩傾斜で設置した管理用通路は、散策路、ジョギングコースとして活用されている。また、既存の特殊堤を転落防止柵として残し、従前の景観保護と震災遺構としての役割をもたせた。



管理用通路をジョギングするランナー



特殊堤パラペットを生かした転落防止柵

【整地した高水敷でバーベキュー】

- ◆多目的広場として活用するために整地した高水敷ではバーベキュー等、多彩なイベントに活用がなされている。



10. 連携した部門

連携した部門（主部門：◎、連携先部門：①～⑤）

道路	河川	都市	住宅	建築	港湾	漁港漁場	鉄道
	◎	①					

連携した部門に関する情報

	実施機関名	対象事業又は施策	対象事業又は施策の内容
①	名取市	復興土地区画整理事業	地盤の嵩上げによる新しい閑上地区の区画整理
②			
③			
④			
⑤			

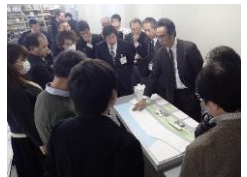
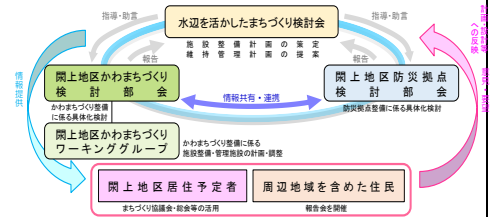
11. 異なる部門の事業が連携した取組の概要

■東日本大震災により、甚大な被害を受けた名取市閑上地区で、隣接する区域内での復旧・復興に向けた国による河川復旧事業、名取市による復興土地区画整理事業が行われるにあたり、市民生活の早期再建はもとより、賑わいを取り戻すうえで新たな観光・交流拠点の形成が位置づけられていることを踏まえ、平成26年に登録された「閑上地区かわまちづくり」計画と同時進行する、復旧、復興事業間の連携を図り事業を一体的に進めたものである。

12. 各段階における連携の工夫・効果等

【連携のための検討部会】

◆閑上地区かわまちづくり検討部会の下部組織としての「かわまちづくり推進ワーキンググループ企画・準備・運営補助等を実施し(3回実施)、検討部会で具体的な検討を行うため、閑上地区居住予定者、賑わい拠点出店予定者等、地域ニーズ、各種制度面および運営面での課題及び調整事項について後援し、川町づくりの向上推進に寄与した。



【事業エリアの見学会等のイベントによる情報発信と情報収集】

◆名取市住民や閑上地区かわまちづくり事業に興味を持つ団体等に呼びかけ、事業エリアの見学、イメージパースを活用した資料により事業計画を説明。アンケートにより広く要望等を収集し、かわまちづくり検討部会での検討資料を作成し、検討結果を基に設計の修正等へ反映した。

